

## Café des open



## 三浦一族

Menu 第10回  
幻の寺院跡、  
大矢部「薬王寺遺跡」

文／中三川 昇（横須賀市教育委員会 生涯学習課）

大矢部1丁目に所在した薬王寺は、和田義盛が建暦2年（1212）に父杉本義宗と叔父三浦義澄の菩提を弔うため建立したと伝わる寺院で、明治9年（1876）頃に廃寺になりました。現在は三浦義澄墓と伝わる石塔が市指定史跡「薬王寺旧跡」の中に残るだけですが、近隣の満昌寺に薬王寺本尊の薬師如来像や薬王寺にあった元応2年（1320年）銘板碑などが残されています。

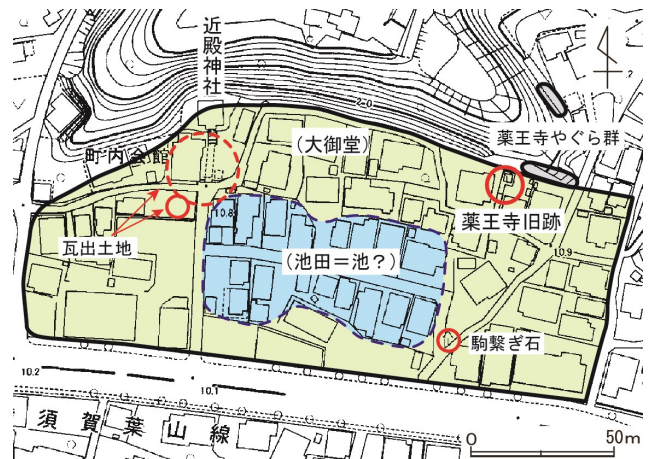
最後の仏堂は史跡地の南側にあっただけで、山門跡と伝わる場所に馬を繋いだと云われる「駒繋石」があります。西側の小字名は「池田」で、苑池の存在を匂わせています。その北側には「大御堂」の地名があり、文字通りならここにもお堂があったと考えられます。「大御堂」の西側には、三浦義澄嫡男の義村を祭神とする「近殿(ちかた)神社」があり、その境内と近辺からは中世の瓦が出土しており、未発見の仏堂が存在したと考えられます。また、薬王寺旧跡の北側では横穴式の中世墳墓である「やぐら」が発掘され、中世の瓦と土器・陶磁器などが出土しています。

近殿神社周辺出土の瓦には鎌倉時代前期から中頃のもの(第2図1～3)と室町時代頃(同4～5)のものがあります。特に前者の瓦(第2図1～3)は現大阪府の和泉国又は河内国との国境近辺で焼かれた瓦で、河内守護(三浦義村・泰村)、河内守(三浦光村)や和泉守護(佐原義連・盛連)などとの強い関連が窺われる瓦です。薬王寺やぐら群の瓦は鎌倉時代末頃から南北朝時代頃のもので、近殿神社周辺の瓦とも異なり、この近辺にも瓦を用いた仏堂があったことが窺われます。このように見てみると、あくまで推定ではありますが山を背に東西に仏堂が並び、南側に苑池を配した寺院の姿が浮かび上がるかと思えます。

薬王寺創建の経緯や往時の姿については正確な記録が無く不明ですが、三浦氏宗家の方々や後に宗家を受け継ぐ佐原一族(大矢部地域は宝治合戦後に鶴岡八幡宮領になりますが、比較的早い時期に宗家を継いだ佐原氏・佐原系三浦氏に還付されていたとも考えられます)らが関わり、長期間に亘って建立・整備され続けた寺院であったかと思われます。薬王寺遺跡の幻の寺院は、義村以降の三浦一族と大矢部地域の寺社等との繋がりを示す重要な遺跡の一つです。



伝「三浦義澄墓」



第1図 薬王寺遺跡全体図



第2図 薬王寺遺跡と周辺出土の軒先瓦

※ 瓦は全て横須賀市自然・人文博物館蔵